

## 令和3年度 第2回千葉市スポーツ推進審議会議事録

1 日 時 令和3年12月23日(木) 午後2時00分～午後3時00分

2 場 所 千葉市役所議会棟 第3委員会室

3 出席者 (委員)

小川直哉会長、本澤英雄副会長、小川重夫委員、五月女重夫委員、高橋薫委員  
(事務局)

神田生活文化スポーツ部長、村田スポーツ振興課長、堀スポーツ振興課長補佐、廣岡担当課長補佐、松澤主査、前田主査、堀越主査、吉田主任主事、田口主任主事、松本主事、野崎保健体育課長補佐、平川指導主任主事、  
貞石オリンピック・パラリンピック調整課長  
内藤公益財団法人千葉市スポーツ協会施設長

4 議 題

(1) 議 事

ア 地元アスリートの支援について

5 議題の概要

(1) 議事

地元アスリートの支援についてご審議いただいた。

6 会議経過

開 会 午後2時00分

【堀 課 長 補 佐】本日の進行を務めます、スポーツ振興課の堀でございます。

なお、本審議会は千葉市情報公開条例により、公開することになっております。

本日の傍聴者は1名でございます。傍聴されます方に申し上げます。

受付の際にお配りいたしました、傍聴要領をご一読いただき、ご理解・ご協力いただけますようお願いいたします。

なお、会議終了後、議事録の作成、議事録の確定を行い、開示されることとなりますので、あらかじめ御了解ください。

それでは会次第に従いまして、変更がございました委員のご紹介をさせていただきます。

令和3年5月に行われた千葉市小中学校体育連盟の総会におきまして、村松委員が千葉市小中学校体育連盟会長の任期を満了されたため、スポーツ推進審議会委員を解嘱し、新委員として、新たに千葉市小中学校体育連盟会長に就任された古山智和小中学校体育連盟会長に就任を委嘱したものであります。なお、古山委員におかれましては、本日学校行事のため欠席の旨ご連絡いただいております。

続きまして、事務局において変更となりました職員をご紹介させていただきます。

令和3年4月より千葉市市民局生活文化スポーツ部長に就任いたしました神田です。

続きましてスポーツ振興課長の村田です。

それでは次第2、小川直哉会長よりご挨拶をお願いいたします。

【小川 会長】 こんにちは。今年も残すところあと数日でございますが、師走も迫った中委員の皆様

様ご出席いただきありがとうございます。今年もコロナの影響で昨年に引き続き、千葉市の大きなスポーツイベントでは中止に追い込まれたものが多数ありました。また国体も昨年の鹿児島国体の中止に引き続き、今年三重国体が実施する予定で関東ブロック大会も全て終了しておりましたが、三重県でも患者が増えたとのことで、急遽中止となりました。そういう中ですが、東京 2020 オリンピック・パラリンピックが無観客とはいえ無事行われまして、日本選手団はオリンピックで金メダルが 27 個、総メダル数が 58 個という史上最高の数のメダルを獲得しました。そしてまた、本市ゆかりの選手もメダルを獲得いたしまして、アスリートの活躍というものが国民そして市民の皆さまに感動と勇気と夢を与えてくれたことは記憶に新しいところでございます。最近はおмикロン株という新しい株が世界各地発生しておりまして、私たちといたしましては一刻も早くコロナが終息するのを願うばかりです。本日は議題一つでございまして、先ほどゆかりのアスリートの活躍ということを申し上げましたけれども、地元アスリートの支援についてということでございます。委員の皆さまには活発なご意見を出していただくようお願いいたします。よろしく願いします。

【堀課長補佐】小川会長ありがとうございました。生活文化スポーツ部長の神田よりご挨拶を申し上げます。

【神田部長】こんにちは。生活文化スポーツ部長の神田です。日頃から千葉市のスポーツ行政にご尽力いただきまして誠にありがとうございます。さて、2021 年は引き続き新型コロナウイルスの猛威が衰えることなく、世界的規模で生活にもスポーツにも様々な影響を及ぼしており、本市におきましても、スポーツを含めた様々なイベントが中止されたところでございます。しかしながら、東京 2020 大会が無事に開催され、本市ゆかりのアスリートが活躍されたという喜ばしいニュースもございました。また、千葉シティトライアスロン大会の開催など、少しずつではございますが、秋くらいからスポーツイベントも再開されてきたところです。さらに、アルティリー千葉という千葉市をホームタウンとするプロバスケットボールチームが誕生するなど、本市のスポーツを取り巻く環境にはポジティブな要素も増えてきております。オмикロン株の登場など、新型コロナウイルス感染症がまだまだ脅威を振るう状況ですが、本市スポーツを後押しする様々な要素を踏まえまして、本日は「地元アスリートの支援」につきまして、皆さまからご意見を頂戴できればと考えております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

【堀課長補佐】それでは、これからの進行につきましては、小川会長にお願いいたします。

【小川会長】まず、「議事録署名人」について、先程、説明があったように、本審議会は会議が公開されており、議事録の確定方法については、「あらかじめ指名された委員」による承認にしたいと思いますが、よろしいですか。

【各委員】<異議なし>

【小川会長】それでは、議事録署名人として、小川重夫委員にお願いしたいと思います。

【小川重夫委員】<了承>

【小川会長】それでは、会議次第に従いまして、進めてまいりたいと思います。

議事(1)の「地元アスリートの支援について」スポーツ振興課よりお願いします。

【スポーツ振興課職員】<資料1により説明>

【小川会長】ただいま事務局より説明がありました、地元アスリートの支援について、ご意見ご質問ご要望等ございましたらご自由にお願いたします。

- 【小川重夫委員】本市の地元アスリートの状況はどのようなようであるか、全国的に地元アスリートが少ないのか多いのか、またどういう選手がいるのか教えていただきたい。
- 【スポーツ振興課職員】現在スポーツ振興課のホームページ上では、パラアスリートを除く約30名のゆかりのアスリートを紹介しております。内訳として野球が1名、サッカー13名、プロゴルフ4名、その他テニス、自転車、陸上競技、体操、バスケットボールの選手など紹介しており、それに加えプロスポーツチーム5チーム、その他8チームを紹介しています。その中で地元アスリートに該当するような人数としては5名程度というのが現状です。
- 【五月女委員】地元アスリートの枠に入るためには、例えば全国大会で何位までに入らなければいけないなど、基準はあるのでしょうか。
- 【スポーツ振興課職員】現状検討段階ですが、全国大会や世界大会出場奨励金のような制度を設けるのであれば、他都市の事例も参考にしながら、例えばJOCに登録されている団体（競技）など、基準を検討する必要があると考えております。
- 【五月女委員】明確には決定はしてないということですね。やっている方たちがそこを目標にできるような基準があったらいいなというふうに思います。
- 【小川会長】野球、サッカー、ゴルフはプロの選手か。
- 【スポーツ振興課職員】野球、サッカー、ゴルフは概ねプロ選手です。
- 【小川重夫委員】競技力向上のためのアスリートの育成ということで考えると、まずは人材であり、人材育成ということは、指導者の養成を含め、どのような指導者がいるかによるところがあります。国では環境整備だと思います。例としてオリンピックのスケートボードやバスケットは世の中で理解されておらず、公園ではルールや危険性のため市に練習を断られる場合もあるなど、練習環境が整っていないと聞きました。やはりスケートボードやストリートバスケットが練習できるような環境づくりが大事だと思います。計画を立案するうえで、財政的な支援が重要と考えますので、競技用具の購入含めて環境整備のための制度を検討いただきたいと思います。千葉市は体育館での車いす利用を可能とするなど、障害者スポーツの環境整備に力を入れており、先進的な事例と感じております。
- 【本澤副会長】先日、今回のオリンピックで金メダルを獲得したアスリートにメダルを触らせていただく機会がありました。そのアスリートは小学校も訪問し、子どもたち全員にメダルを触ってもらったそうです。訪問校の子どもたちは、「金メダルをかけてもらいました。重かったです。大きくてかっこいいです。大きくなったらダンサーになりたいです。」というように希望を持っておりました。広報やホームページだけではなく、アスリートたちに子どもたちと積極的に対面していただいて、将来関心を持つように、例えば野球選手が来たら野球を見に行きたくなるということもあろうかと思しますので、そのような活動も良いと思います。
- 【小川会長】千葉県では体育功労者表彰式があり、オリンピックで活躍した本県ゆかりの選手も表彰しました。県では各種目ごとに、どのような大会で何位以上の者を表彰するという規程がきちんと定められております。千葉市もアスリートの表彰規程をもっと明確にした方が良くと思います。賞状1枚でも嬉しいものなので、表彰制度の拡充を要望したいと思います。また、千葉市スポーツ協会のジュニア育成競技力向上事業の直近の実績があったら教えてください。
- 【スポーツ振興課職員】制度の本格運用始まったのが令和3年度であるが、令和3年度12月時点で5団体に対する助成実績があります。

- 【小川 会長】5 団体の内訳を教えてください。
- 【スポーツ振興課職員】千葉市ソフトテニス協会、千葉市野球協会、千葉市少年水泳連盟、千葉市少年軟式野球協会、千葉市スポーツ少年団です。
- 【五月女委員】千葉市スポーツ少年団はどの競技に対する助成実績でしょうか。
- 【スポーツ振興課職員】少林寺拳法です。
- 【小川 会長】当該事業の年間予算や1 団体あたりの金額はどれほどか。
- 【スポーツ振興課職員】1 団体あたりの金額は最大 10 万円で令和 3 年度の事業予算は約 200 万円程度です。
- 【高橋 委員】千葉市にもたくさんの施設があるが、あと 1 歩手を加えらるともっと多様な使い方ができるという施設がたくさんあると感じます。例えば体育館にネットをつけることによって、フットサルに使えるようになるとか、野球場にマウンドをつけることで硬式野球ができるようになるなど、みんなが使えるようになるために、トップアスリートを目指す人のニーズは満たせないという施設を見受けるので、予算面で難しいと思うが、うまく改善できないかなと感じております。
- もう 1 つは、支援制度があっても、知っている人が少ないと思うので、可能な限り様々なところでアスリートに向けて告知しなければ、本当に必要な人に届かないのではないかと思います。
- 【小川重夫委員】今回のオリンピックでは、新型コロナウイルスの影響もあり、残念ながら子どもたちが大会を見る機会が少なかったが、子どもたちが一流の選手の大会を見るというのはすごく良いことだと思います。例えば、基本計画にもあるように、千葉市ではトップアスリートの学校訪問を実施しているが、その実績はいかがでしょうか。夢や憧れをきっかけに、ジュニアに入ってくると思います。
- 【貞石オリンピック・パラリンピック調整課長】
- 障害者アスリートに関しては、平成 28 年度から障害者アスリートを市内の市立小中養護学校全校に対し、アスリートに訪問いただき、競技体験や講話などを通じて素晴らしいさを見てもらおうといったことを行ってきました。28 年度は 20 校、令和元年度までに市内の全市立学校に対して実施しており、レガシーとして残して行くために、令和 3 年度以降も継続して実施して行く予定です。
- 令和 3 年度については、28 校に実施予定となっております。
- 【スポーツ振興課職員】スポーツ振興課では、トップスポーツふれあい交流事業という名称で、主に小中学校に訪問いただいております。令和 3 年度は約 30 校実施しております。本事業は基本的に選手個人ではなくスポーツチームに依頼をしております。千葉市スポーツ推進計画中間見直しにおいても、拡充事業としており、これまで小中学校のみ対象としていたところであるが、高等学校や一般の市内クラブチームなどにも今後拡充をしていくことを計画しております。
- 【五月女委員】各委員からもご指摘のとおり、周知させることをしなければならないと考えます。スポーツ指導者も制度を知らなければならぬし、少年スポーツでは指導者に周知をして、指導者がここにこういう子がいるというように、推薦する、訴えていくというような形での支援が第 1 の段階だと思います。周知徹底と支援の仕方、指導者が推薦するのか、自己申告なのか、そういった部分でも規程を作っていたら、子どもたち、保護者たちに制度を紹介できると感じます。
- 【高橋 委員】トップアスリートになると、それなりのサポート体制があると思うが、問題はトップアスリートになるちょっと手前の人たちで、その層どうサポートしていくのかということが実は一番難しく苦労しているところではないかと感じます。答えがある

わけではないが、もう少しこういうことをすればトップになれるのという層が、練習場所や用具、良い指導環境に恵まれないといった場合に、その部分をすくい上げてトップアスリート導くことにより、千葉市の中でトップアスリートが増えるのではないかと思います。

【小川重夫委員】 私たちが総合型地域スポーツクラブを各区に1つずつ立ち上げた際、将来総合型地域スポーツクラブの中からトップアスリートが出たらいいという思いがありました。「子どもたちも含めて3世代がいつでもどこでも誰でもできる、様々な種目を体験できる」ということが総合型地域スポーツクラブの特徴ですが、その中から競技志向の子どもたちが出てきて、トップアスリートが総合型地域スポーツクラブから生まれるというようなことを目指しておりました。

スポーツ協会、スポーツ連盟、スポーツ少年団、スポーツ推進委員会等、様々な地域の指導者がいて育成に取り組んでいるが、その中に総合型というものがあり、選手も育てていくということも見ていけたらどうかと思います。

【本澤副会長】 千葉市スポーツ推進計画の基本方針I 事業方針⑤では学校における体育・部活の充実が掲げられているが、先生方も時間が足りない状況の中で、地元の人たちにという話がありますが、現状としてどの程度そういったことが行われているのでしょうか。また、その中にアスリートが入っていく要素もあるのか教えていただきたいと思います。

【保健体育課職員】 令和3年度より地域運動部活動推進事業が立ち上がっており、千葉市においてもモデル校1校で検証事業を行っているところです。今年度と来年度の2年で検証事業を行ない、令和5年度以降、地域スポーツの方に段階的に移行していく計画ですが、地域での活動ができるような体制が整えられていなかったり、指導者の方がいなかったりなど様々な課題もある状況もあります。現在、千葉市では約640もの部活があり、各学校平均すると10部活程度あります。そこを全て地域に移行するとなると、640もの受け皿、640人以上の指導者が必要になり、難しいところであり、今後課題を整理しながら、段階的に進められるよう準備して行きたいと考えます。

【小川会長】 ご承知のように、日本のスポーツは学校の体育としての運動部である学校中心にして発達してきました。それをスポーツ基本法でも体育からスポーツということで、日本体育連盟も日本スポーツ連盟名称変更しましたし、部活に関する学校の先生の負担も大きいので、ヨーロッパ型の部活を地域に移行していくという、大きな国の流れだと思っておりますので、一挙にはいけないとは思いますが、そのような流れの中にあると考えます。

【小川会長】 他に何かありますでしょうか。

【委員】 <なし>

【小川会長】 よろしいでしょうか。それでは以上で議事を終了します。ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

【堀課長補佐】 それでは、これをもちまして、「令和3年度第2回千葉市スポーツ推進審議会」を終わらせていただきます。ありがとうございました。

閉会 午後3時00分